

ホーチミン日本人学校における数学科指導と実践

前在ホーチミン日本国総領事館付属日本商工会議所立ホーチミン日本人学校教諭
北海道帯広市立帯広第四中学校教諭 西岡 正博

キーワード：在外教育施設、算数・数学教育、現地教育

在ホーチミン日本国総領事館付属日本商工会議所立ホーチミン日本人学校

The Japanese School in Ho Chi Minh City

<https://jschoolhcmc.com/>

児童生徒数 小学部 429 人 中学部 123 人 (2021 年 8 月 20 日現在)

1. ホーチミン日本人学校の概要

2020 年度で創立 23 周年を迎えたホーチミン日本人学校は、毎年児童生徒数の増加が続き、2019 年度 11 月末には 662 名、2020 年度には 700 名を超えるのは確実とみられていたが、昨年度末からの COVID-19 による影響で、2020 年度 7 月末には 520 名にまで減少した。教職員は小学部と中学部を合わせて 49 名、そのほかにも英会話講師や事務スタッフ、用務員等がいる。

立地としては、ホーチミン市の中心部 1 区から約 10 キロメートル離れた新興住宅地の 7 区に位置している。台湾人学校、韓国人学校、現地小学校と並んでおり、近隣にはインターナショナルスクールや日系幼稚園もある。増設に増設を重ねた校舎も定員一杯で限界に達してきており、更なる増設が検討されている。児童生徒のほとんどが登下校でスクールバスを利用しているが、中には 1 時間近くかけて通学する児童生徒がいる。スクールバスは毎年台数が増えて 2020 年度現在 27 台となっている。学校の特色としては、全学年で週 2~3 回英会話の授業が行われていることとベトナム現地校や隣にある台湾人学校との交流が行われていることである。

2. 現地視察校の数学教育の現状 (2019 年 11 月)

(1) レクイドン中学校 (現地公立校) の概要

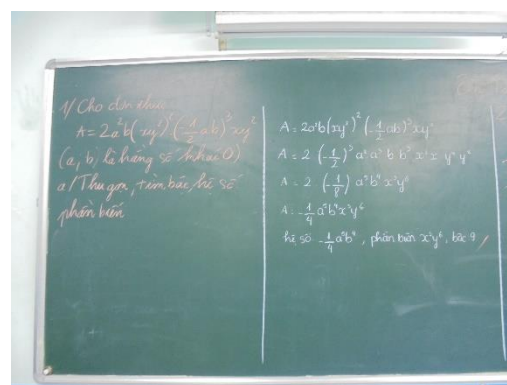
生徒数 …約 3000 人

教員数 …114 人

教育課程…13 教科履修

第二外国語まで (日本語あり)

(2) 視察での学習内容は、日本の内容と変わらないものであり、若干の表記の仕方が異なるが日本の中学生でも学習できるものであった。指導方法としては、教師が黒板に問題を書き、少し時間を取ったあと、教師が説明しながら解くか、できた生徒を指名し黒板に書かせるといったものであった。学習環境としては、狭い教室に生徒が詰めて学ぶ様子が見られた。また、飲み物や携帯電話などを普通に持ち込んでおり、日本のそれとは大きな違いが見られた。成績によって落第があるので、生徒の 90 パーセントが塾でも学習しているそうである。



3. 実態をふまえた授業づくり

(1) ホーチミン日本人学校の生徒の実態

生徒の実態として、学習に対する意識が高い家庭が多く、塾に通う生徒も多い。一方で、数学に苦手意識を持っていたり、国際結婚家庭のため学校以外で日本語に触れる機会が少なかったりする生徒がいる。また、3学期はテト（旧正月）休みの関係で授業日数が少なく、それにより他の学期では日本の学校より学習進度が早くなる。編入学・退学が多い日本人学校では、学期途中で編入学してきた生徒が学習内容のずれで苦勞することがある。これらの実態を考慮して、数学の得意な生徒も苦手な生徒も主体的な学びを成立させるための授業展開を研究し、実践した。単元時数内で、学習する内容をあらかじめ提示、毎授業の最初に学習のポイントを説明し、その後の時間は各自の問題解決の時間とした。教室内は自由に動くことを認め、難問を数人で黒板を使って考えたり、解決のヒントを友達にもらったり、離れて1人でじっくり問題に取り組んだりと自由度の高い学びを意識した。

(2) 手立て

生徒の主体的な学びを実現するために、2つの手立てを意識した。

①見通し（単元の見通し、将来の見通し）

- A. 単元の見通しについては、単元の最初に生徒に配布し、学習内容や時数、授業で取り組む問題を示した。次に学習することがはっきり認識できると、不思議なことに先にやっしまおうとする生徒がいて、どんどん予習を進めていた。
- B. 将来の見通しとは、学習する意味やこれからの社会で必要とされる力、仲間との関わりの中から育まれる力などをことあるごとに説明し、内発的動機付けの1つになるようにした。

②学びの進度

当たり前のことであるが、人それぞれ興味・関心も理解度も得意・不得意もみんな違うということを授業の土台にする。単元の中では、自分のペースで学習を進めることができ、先頭を走るようなスピードで学習を進めていく生徒もいれば、じっくりと問題に向き合い、困った時には仲間にアドバイスをもらう生徒もいる。誰にでもどこにでも聞くことができるようにしており、これが対話的な学びに繋がっている。特に、数学という教科の特性として、今は相談せずに1人で解決したいという場面が多々起こりうる。一人ひとりの学びのペースを大切にしたいので、基本的にはこちらの指示で一斉に話し合わせるようなことはしないようにした。いつでも対話できる環境が安心感に繋がり、意欲的な学習に向かうようにした。

(3) テストの結果分析、リフレクション

学習状況を適切に把握するために、学力テストをアセスメントとして分析した。また、一定期間ごとに、自分の授業での学習状況を自己評価として文章で記述し、教師側の授業改善にも役立った。

4. ICT の活用

ホーチミン日本人学校では Wi-Fi 環境が充実しており、どの教室でも端末を持っていけばネットに繋がることができる。また、文部科学省からの教育環境整備事業の一環で導入された教育用オンラインコンテンツとタブレット端末を利用し、授業内で個人にふさわしい学習内容に取り組むことを試みた。生徒の様子を見ていると、小学校の内容を復習してみる生徒がいたり、発展的な高校入試問題などに取り組む生徒がいたりした。各個人の学習状況に合った学びが展開されている様子が見られた。

5. 最後に

ホーチミン日本人学校の学校教育目標は「進んで学び たくましく ゆたかな子」である。2019 年度末からの

COVID-19の影響で、休校措置を取らざるを得ない時期があった。自分で学習を進めることを基本とした授業を展開することが、教育目標を実現させていくものであると考えていたが、いざ休校となった時に、どれだけの生徒が進んで学ぶことができていたのだろうかと考えさせられた。ここに自分自身の実践の大きな反省があった。与えられなければ学習できないのであれば、それは教育目標の達成とはいえない。授業が再開してからは、生徒にもそのことを話し、「進んで学ぶ」ことを授業から意識する指導を心がけている。1つの知識を身に付けるよりも、1つの学び方を身に付けた方が生徒の人生にとってプラスになると考えて、今後も実践を深めていきたい。